

## 学校保健

# 保健室来室児童への対応と理解について

### —来室者記録の在り方を通して—

内海 和子

## 1 はじめに

平成21年4月1日「学校保健法」が「学校保健安全法」に改正された。そこでは、「健康相談」（第8条）の重要性があげられ、「健康観察」（第9条）が新たに位置づけられた。その背景には、年々子どもたちの生活や心身の健康問題が、多様化し複雑になっており、学校現場においても子どもたちの健康をめぐる課題に適切な対応が求められるようになったことがあげられる。

特に、不登校やいじめ等、子どもの抱える心の問題が顕著化し社会的に保健室が重要視されるようになった。平成20年中央教育審議会答申<sup>1)</sup>では、「子どもたちの健康課題が多様化する中、その解決に向けて養護教諭が学校保健活動の推進に当たって、その役割を十分果たせるようにするための環境整備が必要である。」と提言された。保健室経営についても答申の中で初めて打ち出され、保健室の重要性が認められたともいえる。

表1は日本学校保健会の「平成18年度保健室利用状況に関する調査報告書」<sup>2)</sup>を基に、学校別保健室利用状況について割合の多いものを抜粋したものである。

表1 学校別保健室利用状況 (%)

来室理由	小学校	中学校	高等学校
けがや鼻血の手当て	34.5	15.6	12.1
体調が悪い	14.3	21.9	29.4
友達の付き合い・付き添い	16.3	15.7	14.6
委員会活動	14.4	6.6	3.3
なんとなく	5.3	10.8	7.2

本校の保健室来室者の中にも、頻回来室者や内科的症状を訴えて来室する気になる子どもがいる。

校種により利用状況もかなり差があることを考慮し、小学校における保健室利用について考えていく。そのもとになるものが、「保健室来室者記録」である。記録の重要性とその意味について、後藤ら(2007)は「記録をすることで対応の振り返りができ、救急処置を適切に行うことができる。継続的に児童生徒をとらえ対応に生かす。後にはデータとして集計することにより資料、教材として利用できる。」と述べている<sup>3)</sup>。記録は、来室時の子どもの状況や症状、養護教諭の対応などが記録され健康相談の重要な情報となる。

本研究は、本校の保健室来室者の特徴を分析し、来室者への対応は、保健室の特性を生かしながら、どう理解し支援していくことが効果的なのか、来室者記録の在り方を検討していくことを目的とする。

## 2 研究の方法

### (1) 子どもの実態把握

#### ①保健室来室者記録

期間：平成24年4月～12月

対象：全校児童（450名）の保健室来室者

本校では、外傷や身体不調等で来室した場合、図1の記録用紙を用いて記録をしている。記入は状況に応じて、本人や付き添い又は養護教諭がおこなっている。

#### ②健康観察

期間：平成24年4月～12月

毎朝担任が行う健康観察による実態把握。

保健室来室者記録												
月 日 ( )		はれ くもり あめ ゆき		No								
がく 学級	しゅつせき 出席 ばんごう 番号	な まえ 前	びょうき・けがの ようす (症状)	どこが (部位)	いつから (発生時間) (来室時間)	どこで(場所)	なにを して いて どう な った (原因)	ほけんしつ でのしよち (処置)	貸し出し	返却	お手紙	病院
-						教室・廊下・階段・体育館 ベランダ・グラウンド・裏校庭 昇降口・プール・音楽室 図工室・( )		水で洗う・消毒・カットパン 冷やす・温める・体温(℃) かゆみ止め・様子を見る	保冷剤 ハンカチ			
-						教室・廊下・階段・体育館 ベランダ・グラウンド・裏校庭 昇降口・プール・音楽室 図工室・( )		水で洗う・消毒・カットパン 冷やす・温める・体温(℃) かゆみ止め・様子を見る	保冷剤 ハンカチ			
-						教室・廊下・階段・体育館 ベランダ・グラウンド・裏校庭 昇降口・プール・音楽室 図工室・( )		水で洗う・消毒・カットパン 冷やす・温める・体温(℃) かゆみ止め・様子を見る	保冷剤 ハンカチ			

図1 保健室来室者記録用紙

(2) 実態把握からの現状分析

①保健室来室者記録

本年度4月から12月までの来室者を、外科・内科別、月別にまとめてみると図2のようになる。外科,内科以外の来室理由に「家のけが」や「その他」がある。「その他」は、低学年に多い着替えや、高学年に多い気持ちを落ち着かせる等である。

ベネッセコーポレーション社発行「モノグラフ・小学生ナウ」における全国の小学校保健室の利用状況<sup>4)</sup>によると、「外科」21.5%、「内科」10.2%、「相談」2.3%、「その他」65.7%となっている。本校では、「外科」59.9%、「内科」

37.0%となっており、全国の「外科」「内科」の比に対して、内科的訴えの傾向が高い。また図2によれば、外科的な訴えは5月と9～11月に多い。これは、気候が良いので子どもたちが運動場等校舎外でよく遊んでいるため、また活動が活発になり、慣れてきて不注意によるけがも多いと考えられる。一方唯一、内科的訴えが外科的を上回っているのが4月である。これは、学期始めで新しい環境による緊張と疲れからくることが考えられる。学校では、原則「家のけが」の手当ては行わないことになっている。にもかかわらず、家でしたけがで来室する子どもがいる。継続的な手当を求め

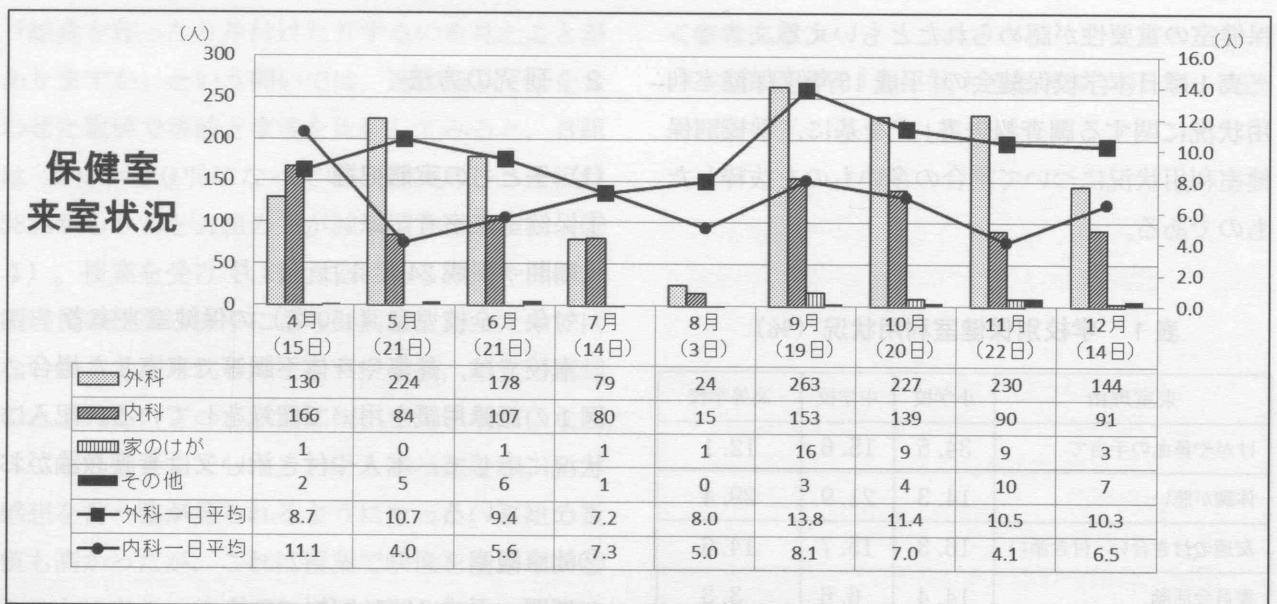


図2 保健室来室者記録

て来た者もあろうが、報告を兼ねて自分のけがについて知ってほしいというアピールを感じる。曜日別に一日の平均来室者数をみていくと、図3のようになる。

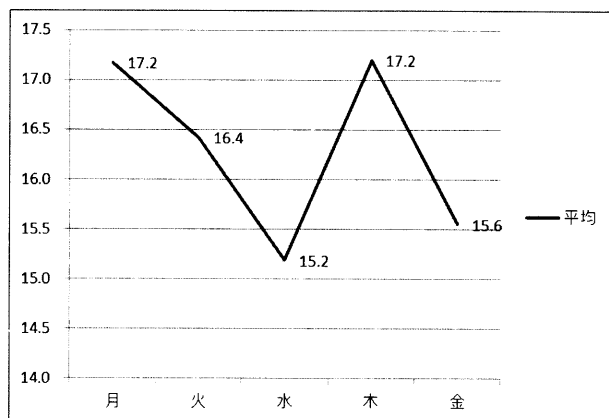


図3 曜日別一日平均来室者数 (人)

月曜日と木曜日が他の曜日と比べて、1～2人多い。月曜日は、1週間の始まりで休日の生活の仕方が現れやすい。木曜日は、全学年とも6時間の授業があり、夕方まで多くの子どもたちが遊んでいるため、けが等で来室者が多いと考えられる。これを主訴別に見たものが図4である。ほとんどの曜日が外科の割合が多いのに対して、火曜日は内科的主訴で来室する子どもの方が多いという特徴がある。週末から月曜日の疲れが出やすいためと考えられるが、今後の傾向をみて分析をしていく。

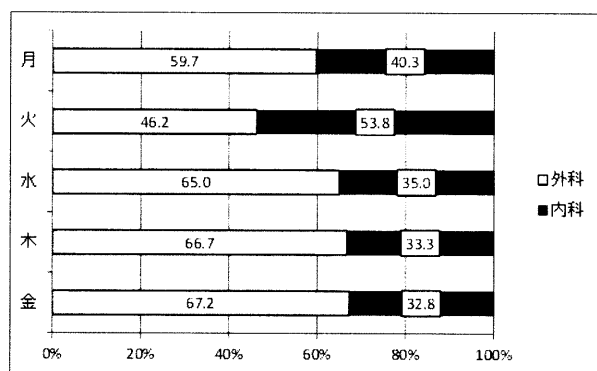


図4 曜日別・主訴別来室者の割合

## ②健康観察

健康観察の重要性については、「教職員のため

の子どもの健康観察の方法と問題への対応」で、「日常的に子どもの健康状態を観察し、心身の健康問題を早期に発見して適切な対応を図ることによって、学校における教育活動を円滑に進めるために行われる重要な活動である。」と述べられている<sup>5)</sup>。毎日の健康観察は、体調不良だけでなくストレスや悩み、いじめ等、子どもが抱える心の健康問題の早期発見ができるだけでなく、子どもが自分の身体の調子に関心を持ち、それを伝える力にもつながると考える。

毎日、朝の会で行う健康観察で、何らかの症状を訴えている子ども、継続した訴えのある子どもについては、担任等と連携しその子の体調や生活の様子・人間関係等の情報収集を行い、いつもと違う状況を把握しなければならない。

### (3)対応と理解

#### ①日々の保健指導

どこをけがしたのだろうと思うけがや、付き添いで来ていても、けがを探して自分も見てもらおうとする子どももいる。その姿から、「かまって欲しい。」「自分のことを気にかけてほしい。」という思いを感じる。

そこで、次のような子どもの姿をめざし保健指導をおこなっている。まず、自分の体の状態を考えてより健康的に生活するため、今の生活を振り返り実践できる子ども、そして肯定感を持って自分の成長を受け止め、自分もまわりの人も大切にしようとする子どもである。指導にあたっては、次の3つの視点を大切に考えた。

#### ア)保健室の機能を生かす

保健室から見た児童の健康課題や、行動の実態に応じた指導を行うことで、自分の生活のあり方を振り返ることができるようにする。また、学習の後の来室者の様子を把握することにより指導の評価とする。

#### イ)子どもの気づきを大切に

指導の過程で「あーそうか!!」「なるほど」と気づき、体験したり視覚的に訴えることで自分のこととして考えられるよう工夫する。

ウ)「わかる」「知る」から「実践できる」めざし

て

学んだことを自分の身体や生活と結びつけ、より健康的に生活するために学習した内容を行動につなげられるようにする。

## ②授業

けがをして来室した時(特に擦過傷)、水で洗って来ていない子どもが、低学年に多い。水で洗うだけで十分というけがの場合もある。けがの手当の基本を知る、自分の健康管理ができる力を育てていくことも必要である。入学した段階で保健室の利用の仕方と合わせ、1年生で「けがが治るしくみ」について学習することにより、けがの手当の仕方と、自然治癒力のすばらしさを知らせ自己肯定の気持ちを育てていく。

○ 題材名「私たちのからだってすばらしい」

○ 目標

- ・けがを治すのは自分の力(自然治癒力)であることを知らせ、自分の体のすばらしさに気付く。
- ・自分でできる簡単な手当の仕方を知り、実践しようという気持ちを持つ。

## 3 指導の実際

### (1) 日々の保健指導

保健室は教室では見られない子どもの様子が見えるところでもある。「いつでも行ける。くつろぎ、ホッとできるスペースがある。教室とは違う設備や環境がある。」という保健室の特性と、養護教諭の専門性を生かした対応が必要となる。対応の基本は、まず救急処置や体温・脈拍・顔色等で身体症状を確認し、睡眠時間・食事など生活の様子を把握した。また、朝の健康観察をもとに、朝からの様子を子どもに振り返らせた。スキンシップをとりながら、緊張や不安を取り除いて精神的安定を図り、そのうえで、器質的なものか心因による身体不調なのか考えていった。

#### 【事例1】

〈内科的訴えから新学期の不安がわかった例〉

新年度が始まって1週間後、「しんどい」という主訴で来室。熱もなく脈拍も正常であり、生活

が不規則になっている様子もないので、「しんどかったらまたおいで。」と言って教室へかえす。

翌日また、「しんどい」と来室。身体症状を確認後、生活の様子を聞くと「食欲がなくご飯が欲しくない。」と言う。食事について詳しく聞くうちに涙が出てきた。「何かしんどいことがある？」という問いかけに、「新学年になってがんばろうと思う。クラスでも、給食を残さないように食べようという話が出たが、全部食べようと思うとしんどい。」という思いを話してくれた。本人には、無理をしなくていいこと、しんどくなったらいつでも来ていいことを伝え、担任と連携をとり給食の量を調整することにした。家庭にも、本人の思いと不安を話し見守ってもらうようお願いする。

その後、しんどい時に休養・早退したが、次第に来室もなくなっていった。廊下ですれ違った時など、目を合わせ気にかけている合図を送っている。

#### 【事例2】

〈ストレスが身体症状で現れた例〉

夏休みまで一度も来室したことがない子どもであった。夏休み明け、給食時間に「手が開かなくて箸が持てない。」と、泣きながら担任と来室。本人は不安定になり話せる状況ではない。こわばった手をさすりながら落ち着かせ、思いを聞こうとするがなかなか口を開かない。スキンシップを続けながら、安心感を与えていくうちに、親の期待がしんどいことを話し始めた。担任と連携し、家庭へ本人の状況と思いを伝え、今の頑張りを認めていくことにした。その後、ストレスからくる身体症状はなくなり、来室はなくなった。

これらの事例のように、身体不調に対応していく中で、子どもの持つ不安や悩みがわかることがある。保健室の機能を生かし、スキンシップをとりながら気持ちを落ち着かせたり、ゆっくり話を聞く対応をしている。

### (2) 授業

○ 対象児童 第1学年

○ 指導時期 平成24年10月

## ○ 題材について

子どもの日常生活において、けがはつきものである。私たちのからだには、けがをしても治そうとする働き（自然治癒力）があり軽いけがだと水で洗うだけで十分である。また、けがをする場所によっては薬がなかったり、大人がいないこともある。自分のからだのすばらしさを学習することで、自己肯定の気持ちを持てるようにしたい。

また、転んだりした時のすり傷・切り傷などは、洗うことがけがの手当ての基本であることを理解させ、ケガをしたらまず洗うということを実践できるようにしたい。

- ・ バリアくんやガードマンやうんぱんしゃがいて、けがをなおしてくれるんだなと思いました。これから水であらって、バリアくんやガードマンやうんぱんしゃに、まかせてみようかなって思いました。けがをなおしてくれるじぶんはすごいなと思いました。
- ・ からだにはこんなに、いろんなバリアくんや、ガードマンやうんぱんしゃというたすけてくれるのがあるんだなと思いました。たすけられすぎてもらってもいけないから、水であらってきょうりよくしたいと思いました。
- ・ きょういろんなひみつがわかったしバリアくんとガードマンとうんぱんしゃのことをしてよかったです。ごはんをいっぱい食べたり、早ね早おきをしたり、けがをしないように気をつけることもだいじだとおもいました。

日常おこるけがを取り上げることで、自分のこととして考えられるようにし、専門用語（白血球・赤血球・血小板）も役割がわかりやすいような名前をつけて呼ぶことで、より働きを理解できるようにした。

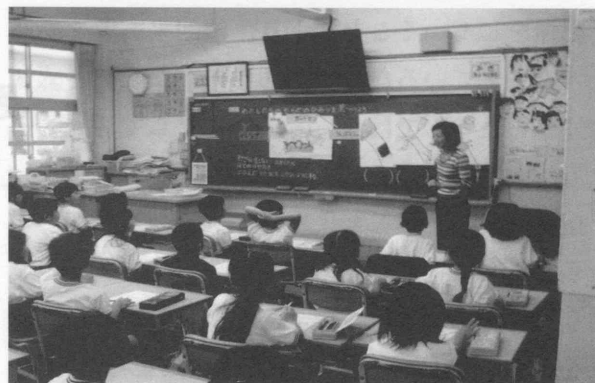


図5 授業の様子

この授業では、けがをして保健室に来室した時洗って来ない子どもがいるという課題から、自分の身体や生活について考えていった。また、自然治癒力を高めるために日常生活の在り方にも、目を向けることができた子どももいた。授業で学んだことを行動化できているかという点では、授業後けがをして来室してくる子どもたちはきちんと水で洗って来ている。また、洗って来ない場合、付き添いで一緒に来ている子どもが「洗ってこんといけんよ。」と声をかけている姿が見られる。

## 4 考察

保健室来室状況で見ると外科的症状による来室が多いが、全国の傾向と比較して見ると、内科的症状を訴えて来室する子どもが多いことが分かった。子どもたちは「相談があります。」と自分から言ってくることは少なく、就寝時間や食事の様子など生活の様子を聞いていくうちに、友達関係や自分のことなど、気になることや悩みが明らかになっていく。低学年ほど子どもの表現力が十分でなかったり、思いをうまく伝えることができないことから、発達段階に応じてより丁寧な問診・対応が必要となる。

しかし、休憩時間や昼休憩は来室者が集中して多いため、同時に何人もの子どもとの対応をしなければならない。限られた時間の中で、迅速かつ丁寧な対応を的的確な判断をしていくためには、来室記録を活用した状況把握が欠かせない。また、

記録をしていくことにより、頻回来室者を漠然と「よく来ているな。何かあるのかな？」と感覚的にとらえるのではなく、データとして客観的に見ることができる。

指導の実際で示したように、個別の支援が必要な子どもには担任等との連携は欠かせないことであり、詳細な記録は重要である。また、本人に記録をさせることは、けがの状況や原因を考えたり、体調不良の場合は今の生活の見直し、どうしたらいいかを考えることにつながり、自分で健康管理をしていく力を育てていくことにもつながると考える。

何より養護教諭自身の対応を振り返ることができ、健康相談活動へとつなげていくことができる。

子どもの身体の状況から抱えている課題や思いを理解し、担任と連携した支援を行い、評価反省をすることにより、次の事例にも生かされる。

## 5 おわりに

保健室は、身体不調をはじめ、付き添いとして、委員会活動の場として、身体計測のために、なんとなくなど、様々な理由で来室できる場所である。子どもたちの抱えている問題が身体症状として現れたり、何かを求めて頻繁に来室したりする子どもたちを受け止め、その子どもたちの思いをどう理解していけばいいのだろうか。

日々の来室者記録は、子どもの来室状況や症状を、継続的に記録していくことで、来室傾向をつかみ一時的な処置ですむ子ども、継続的な支援が必要な子どもの把握がしやすい。

休憩時間等、来室者が多い場合の記録は、限られた時間の中で行なわなければならない。また、低学年は記録に時間がかかる。学年を配慮し、低学年の場合は選択方式にするなど、発達段階に応じた様式や、短時間で記入できる工夫が必要である。

今後、より具体的に子どもの生活状況を把握し、その子どもが抱える課題をどう支援していくのか、また、来室者記録からどのような情報を得てどう

活用したいのかを明確にし、それに沿った様式を考えていきたい。

## <注および引用・参考文献>

- 1) 中央教育審議会答申：「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」平成20年1月
- 2) 日本学校保健会：平成18年度調査「保健室利用状況に関する調査報告書」平成20年2月
- 3) 後藤多知子，古川真司：「保健室来室記録のあり方と養護教諭の主な属性との関連」，愛知教育大学研究報告，pp. 47-52, March, 2007
- 4) 新谷りつ子，岡田珠江，佐田和美：「保健室来室児童・生徒の理解と対応：保健室実態調査と主訴別事例検討を通して」，三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要，2002, 22, pp. 119-128
- 5) 文部科学省：「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」p. 6, 平成21年3月